

## 残留農薬検査(その1)

当所では、横浜市内に流通する農作物や食肉等の食品に残留する農薬について検査を行っています。平成18年5月に施行されたポジティブリスト制度に伴い、現在では有機リン系農薬、有機塩素系農薬、ピレスロイド系農薬及び有機窒素系農薬の約90項目について検査を行っています。

今回は平成21年4月から5月末日までに行われた検査結果を報告します。

### 1 国内産農作物

食品専門監視班から5月に搬入されたアスパラガス、チンゲンサイ及びレタス(各3検体、計9検体)について残留農薬検査を行いました。その結果を表1に示します。チンゲンサイ1検体からアセタミプリド\*1が検出され、別の1検体からシペルメトリン\*2が検出されました。ただし、検出された農薬について残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。検査項目及び検出限界については表2に示します。

表1 国内産農作物の残留農薬検査結果 (H21年4月～5月末日)

農作物	産地	検査 検体数	農薬検出 検体数	検出農薬名	検出値 (ppm)	基準値 (ppm)
国内産農作物						
アスパラガス	国産	3	0			
チンゲンサイ	国産	3	1	アセタミプリド	0.03	5 以下
			1	シペルメトリン	0.32	5.0 以下
レタス	国産	3	0			

表2 農薬の検査項目及び検出限界(92項目)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農薬名	検出 限界 (ppm)	農薬名	検出 限界 (ppm)
有機リン系農薬					
EPN	0.01	ジクロフェンチオン	0.01	フェンクロルホス	0.01
イソフェンホス	0.01	ジメチルビンホス	0.01	フェンスルホチオン	0.01
イプロベンホス	0.01	ジメトエート	0.01	フェンチオン	0.01
エチオン	0.01	スルプロホス	0.01	フェントエート	0.01
エトプロホス	0.005	ダイアジノン	0.01	ブタミホス	0.01
エトリムホス	0.01	テトラクロルビンホス	0.01	プロチオホス	0.01
カズサホス	0.01	テルブホス	0.005	プロパホス	0.01
クロルピリホス	0.01	トルクロホスメチル	0.01	ホサロン	0.01
クロルピリホスメチル	0.01	パラチオン	0.01	マラチオン	0.01
クロルフェンビンホス	0.01	ピペロホス	0.01	メチダチオン	0.01
シアノフェンホス	0.01	ピリダフェンチオン	0.01	メチルパラチオン	0.01
シアノホス	0.01	ピリミホスメチル	0.01	メビンホス	0.01
ジオキサベンゾホス	0.01	フェントロチオン	0.01		

表2の続き

農薬名	検出 限界 (ppm)	農薬名	検出 限界 (ppm)	農薬名	検出 限界 (ppm)
<b>有機塩素系農薬</b>					
BHC ( $\alpha, \beta, \gamma$ 及び $\delta$ の和)	0.005	クロルフェナピル	0.01	トリアジメホン	0.01
$\gamma$ -BHC(リンデン)	0.002	クロルフェンゾン	0.01	プロシミドン	0.01
DDT (DDE,DDD,DDT の和*)	0.005	ジクロラン	0.01	プロピザミド	0.01
アルドリン及び ディルドリン	0.005	ジコホール	0.01	プロモプロピレート	0.01
エンドスルファン ( $\alpha, \beta$ の和)	0.005	テトラジホン	0.01	ヘプタクロル (エポキシドを含む)	0.005
エンドリン	0.005				
<b>ピレスロイド系農薬</b>					
アクリナトリン	0.01	デルタメトリン及び トラロメトリン	0.01	フェンプロパトリン	0.01
シハロトリン	0.01	ハルフェンプロックス	0.01	フルシトリネート	0.01
シフルトリン	0.01	ビフェントリン	0.01	フルバリネート	0.01
シペルメトリン	0.01	フェンバレレート	0.01	ペルメトリン	0.01
テフルトリン	0.01				
<b>有機窒素系農薬</b>					
アセタミプリド	0.01	テトラコナゾール	0.01	ブタクロール	0.01
イソプロカルブ	0.01	テブコナゾール	0.01	フルジオキシニル	0.01
エスプロカルブ	0.01	テブフェンピラド	0.01	フルトラニル	0.01
カフェンストール	0.01	トリアジメノール	0.01	プロメカルブ	0.01
クレソキシムメチル	0.01	ピリプチカルブ	0.01	ヘキサコナゾール	0.01
クロルプロファミ	0.01	ピリプロキシフェン	0.01	ペンコナゾール	0.01
シメトリン	0.01	ピリミノバックメチル	0.01	メトラクロール	0.01
チオベンカルブ	0.01	フェナリモル	0.01	メトリブジン	0.01
チフルザミド	0.01				

※ DDTはp,p'-DDE、p,p'-DDD、o,p'-DDT及びp,p'-DDTの和

### 【解説】

#### \*1 アセタミプリド

有機窒素系農薬に該当し、主に『モスピラン』という商品名で各農薬メーカーにより一般的に販売されています。広く使われている有機リン系農薬などに対して効きにくくなった多くの害虫に対しても有効的に作用する農薬です。

#### \*2 シペルメトリン

ピレスロイド系農薬に該当し、主に『アグロスリン』という商品名で各農薬メーカーにより一般的に販売されています。有機リン系農薬などに対して効きにくくなった多くの害虫に対しても有効的に作用する農薬です。また耐雨性及び耐光性に富み、長い残効性があります<sup>1)</sup>。

### 【文献】

1) 社団法人日本植物防疫協会、農薬ハンドブック2001年版、88-90

【 微量汚染物担当 】